

# 白山の火山活動解説資料（平成 29 年 10 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

10日22時03分に山頂付近の深さ4km付近を震源とするマグニチュード(M)<sup>1)</sup>2.3の地震が発生し、その後、11日05時頃にかけて振幅の小さな地震が増加しました。白山では、過去にも一時的な地震増加がみられており、今回の活動も、これらと同様の活動とみています。その他の観測データの変化はなく、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

## 活動概況

### ・噴気など表面現象の状況（図2）

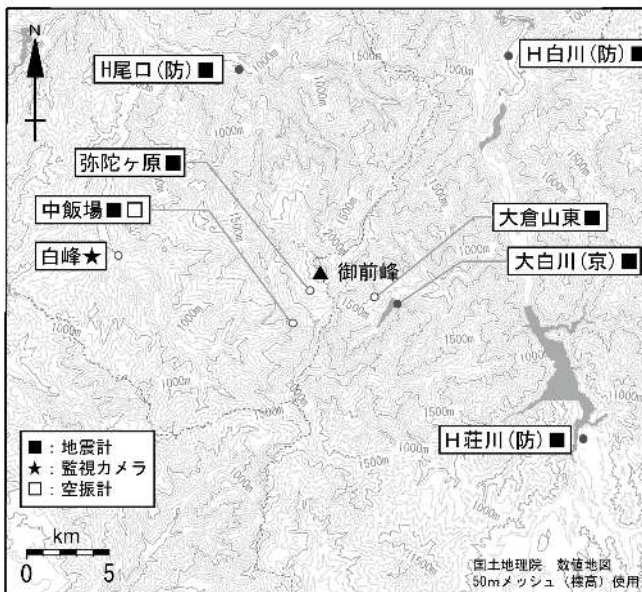
白峰監視カメラ（白山山頂の西約12km）による観測では、山頂部に噴気は認められません。

### ・地震や微動の発生状況（図3～5）

10日22時03分に山頂付近の深さ4km付近を震源とするマグニチュード2.3の地震が発生し、その後、11日05時頃にかけて振幅の小さな地震が増加しましたが、11日05時以降は減少しました。また、低周波地震や火山性微動は観測されていません。

白山では、これまでも一時的な地震の増加が時折みられており、今回の活動も、これらと同様の活動とみています。なお、24時間の地震回数が100回を超えたのは、2014年12月16日（167回）以来です。このときの最大規模の地震のマグニチュードは3.4でした。

1) マグニチュード(M)は地震の規模を表します。Mの値は暫定値で、後日変更することがあります。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(防)：防災科学技術研究所、(京)：京都大学防災研究所

図1 白山 観測点配置図



図2 白山 山頂部の状況  
(10月26日 白峰監視カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ ([http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)) でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（平成29年11月分）は平成29年12月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、名古屋大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』『数値地図25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号：平26情使、第578号)。

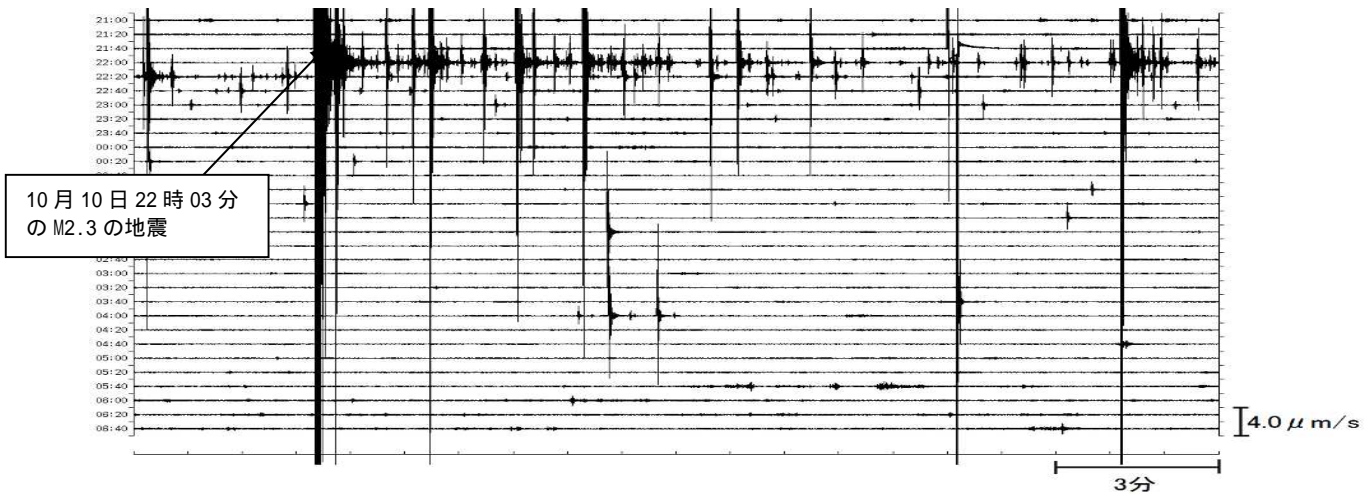


図3 白山 弥陀ヶ原観測点地震波形(上下動速度)(2017年10月10日21時~11日07時)

【計数基準の変遷】

開始 2005年12月1日~2011年9月30日  
 変更 2011年10月1日~2014年9月18日  
 変更 2014年9月18日~

弥陀ヶ原: 振幅 1.0 μm/s、S-P時間 1.5秒以内  
 中飯場: 振幅 1.0 μm/s、S-P時間 1.7秒以内  
 弥陀ヶ原: 振幅 1.0 μm/s、S-P時間 1.5秒以内

2014年12月16日 167回  
 10月10日 118回

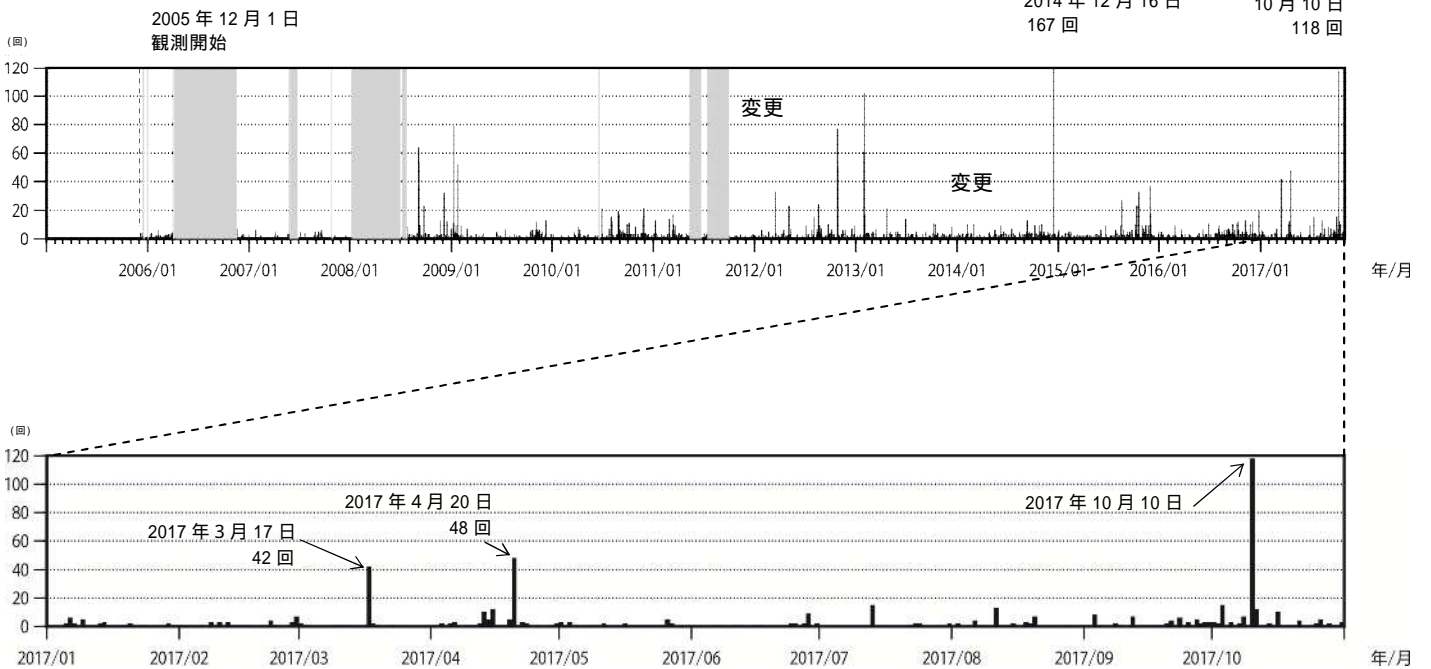


図4 白山 日別地震回数

上段:(2005年12月1日~2017年10月31日)

下段:(2017年1月1日~2017年10月31日)

・図の灰色部分は機器障害による欠測期間

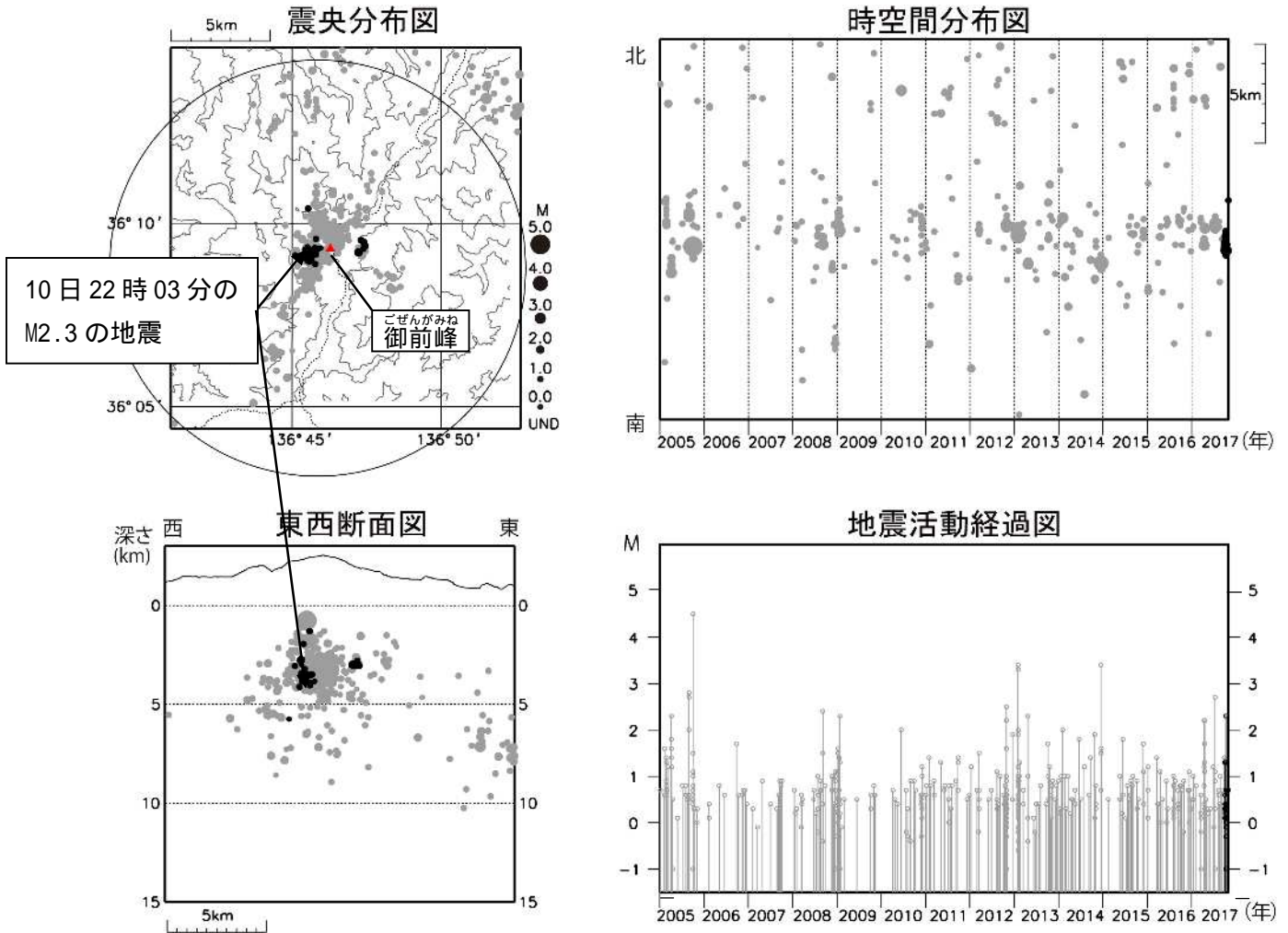


図5 白山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2005年1月1日~2017年10月31日)  
 : 2005年1月1日~2017年9月30日 : 2017年10月1日~10月31日

- ・震央分布図中の円は図4の計数対象地震(弥陀ヶ原観測点でS-P時間1.5秒以内)のおよその範囲を示しています。
- ・広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
- ・M(マグニチュード)は地震の規模を表します。
- ・図中の震源要素の一部は暫定値が含まれており、後日変更することがあります。